

経営比較分析表（平成26年度決算）

埼玉県 坂戸、鶴ヶ島下水道組合

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Ab	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	70.27	76.08	1,998

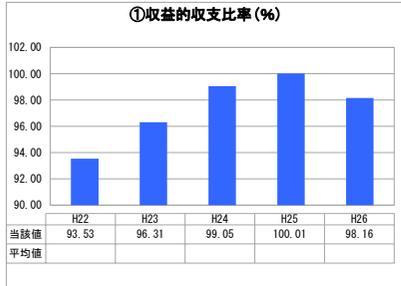
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
114,897	15.01	7,654.70

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



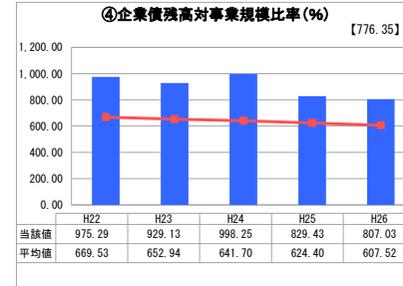
「単年度の収支」



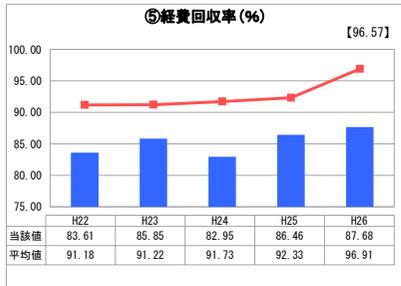
「累積欠損」



「支払能力」



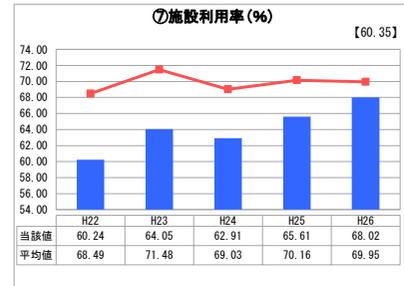
「債務残高」



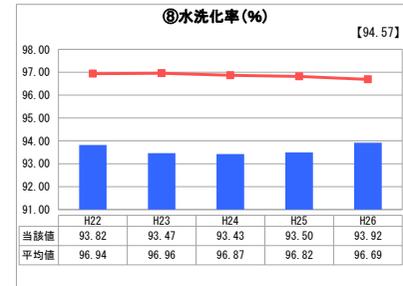
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

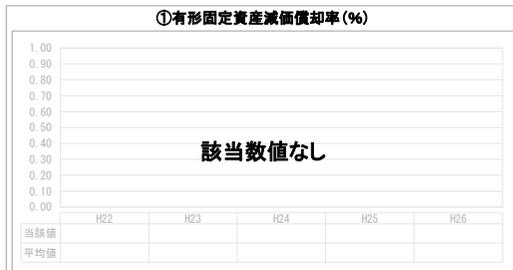


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

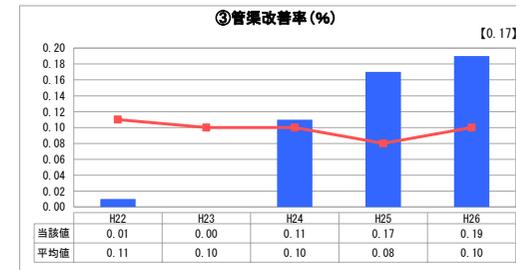
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

処理区域拡大による使用料収入の増加により、収益的収支比率は増加していたが、平成26年度においては、節水型機器の普及や節水意識の浸透などから、初めて有収水量が前年度割れとなり、水処理センター施設の工事費増に伴う営業費用の増加により収益的収支比率は減少となった。

本組合では、水処理センターが2箇所あるため、維持管理費及び汚水処理原価が高い傾向となっており、施設の老朽化に伴い管渠等の改修・水処理センターの機械器具の更新及び施設改修・増設に多額の財源が必要となる。

今後は、経営の健全性・効率性の向上に向けて公営企業会計への移行を進めるとともに、収益的収支比率及び経費回収率の改善に向けて、普及活動による水洗化率の向上はもとより、使用料を含めた収支計画の検討が必要である。

2. 老朽化の状況について

管渠長寿命化により、経年劣化した汚水管について計画的に管更生工事を実施し、管渠の延命化を行っている。

全体総括

既存施設の老朽化対策及び処理区域拡大の整備が同時並行で実施されている本組合においては、収益的収支比率あるいは経費回収率を改善するために、普及活動による水洗化率の向上はもとより、中・長期的に自立・安定した経営基盤を築くために使用料を含めた収支計画の検討が必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。